

2020年度

環境経営レポート



対象期間： 2020年9月～2021年8月

発行年月日： 2021年11月

トラステックアース株式会社

目 次

1	挨拶	P3
2	環境経営方針	P3
3	事業概要&認証登録範囲	P4
4	実施体制	P4
5	環境経営目標	P5
6	環境経営目標の実績	
	-1 単年実績	P6
	-2 中期実績	P7
7	環境活動計画及び、取り組み結果と評価	P8
8	次年度以降の環境活動計画の取組内容	P9
9	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無	P10
10	代表者による全体評価と見直し等指示の結果	P10

1 挨拶

この度はトラステックアース株式会社『2021年度環境活動レポート』を御高覧戴き誠に有難うございます。地球温暖化の問題が叫ばれ、先進国は「京都議定書」を策定し2005年2月に発効しました。またその後、発展途上国を含めた国際的な枠組みとして、2015年には「パリ協定」が決められました。「環境保全」に関して本年も進めて参りましたが、環境問題に限らず地球の未来のために国連サミットで決められた国際社会の共通目標『SDGs(持続可能な開発目標)』の17項目により社会、企業の狙うべき方向性が問われています。国是としての2050年のカーボンニュートラルへ向けた施策は中小企業においても重要な解決課題であり、弊社としても生産段階からのCO₂の削減に今以上に注力していかなければなりません。「環境適合企業」になるために「エコアクション2.1」の取組みをもって社員とともに進めて参ります。

代表取締役 藤村 勇二

2 環境経営方針

《環境理念》

トラステックアース株式会社は、全経営活動の中で、環境との調和に対する取組みを最高経営課題の一つと位置付け、関連するサプライチェーン全体で、環境負荷の低減活動の質の継続的な向上を図り、環境と調和した社会づくりに貢献します。

《環境保全への行動指針》

- 1, 当社の事業活動における環境に影響を与える要因を的確に捉え、次の事項に重点的に取り組み、環境汚染の防止に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 省資源、節水、省エネルギーの推進
 - (3) 含有化学物質管理、含有禁止物質の不含有
 - (4) 廃棄物の削減、リサイクル化
- 2, 環境関連の法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項協定等を遵守します。
- 3, 環境経営方針を達成するために、環境目的、目標を定め、これを確実に実施していくためのプログラムを作成し、運用します。
- 4, 環境マネジメントシステムを構築し、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
- 5, 全社員一人ひとりにこの環境経営方針を周知させ、環境に関する教育訓練を行い、環境意識を高め、更に地球環境保全に貢献します。要求があった場合は、環境関連情報を開示します。

制定日：2011年9月1日

改訂日：2021年9月20日 版4

トラステックアース株式会社

代表取締役

藤村 勇二

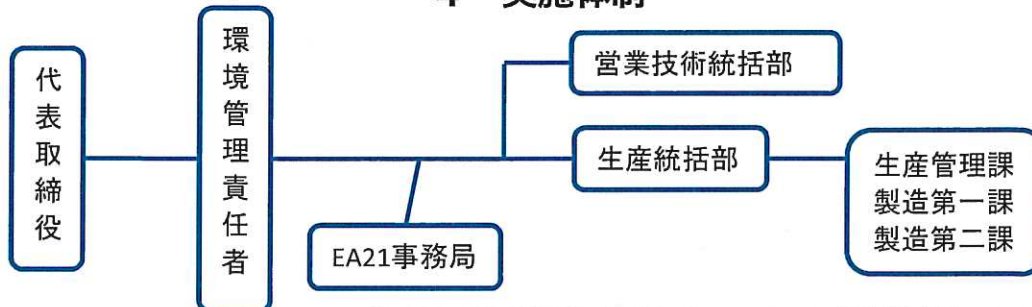
3 事業概要&認証登録範囲

- 1 名称及び代表者名
 トラステックアース株式会社
 代表取締役 藤村 勇二
- 2 所在地
 本社 工場
 〒021-0822 岩手県一関市東台14-38 TEL 0191-23-4811
- 3 環境管理責任者及び担当者連絡先
 環境管理責任者 営業・技術統括部 内村 勝裕 TEL 0191-23-4811
 担当者 経理・会計 千葉 英恵
 E-MAIL chiba-ha@trustec-e.co.jp
- 4 事業活動の内容
 通信機器・テールパッキン・理化学機器・配線・制御盤他の製造
- 5 事業規模
 資本金 10,000千円
 売上高 5億1,000万円
 主要製品生産量

項目	本社
従業員	48名
延べ床面積	18,800㎡

- 6 認証登録範囲
 本社、工場

4 実施体制



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施。 ・環境方針の策定 ・経営における課題とチャンスを確認にする
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。 ・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 ・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。 ・従業員に対する教育訓練の実施
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
全社員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

5 環境経営目標

1 環境経営目標の設定

当社では、前々年の2018年度を基準年度として中期及び単年度の目標を表2のとおり設定し、環境活動に取り組んでおります。

目標総排出量は基準年から毎年 1% の削減です。

表2 環境目標

項目	単位	基準年	単年度目標		
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
二酸化炭素排出量（総計）	kg-CO ₂	422,101	417,880	413,659	409,438
電力の二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	290,326	287,423	284,520	281,617
ガソリン・軽油等の二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	38,900	38,511	38,122	37,733
灯油、LPG等の二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	92,875	91,946	91,017	90,089
一般廃棄物排出量	kg	3,240	3,208	3,175	3,143
産業廃棄物排出量	kg	17,292	17,119	16,946	16,773
資源として有価販売	kg	121,695	122,912	124,129	125,346
総排水量（水資源投入量）	m ³	1,564	1,548	1,533	1,517
ドラフトのROHS化	件	0	0	0	0
グリーン購入消耗品	品種	2	2	2	2
グリーン購入事務用品	品種	2	2	2	2

※追記 目標設定の電力の二酸化炭素排出係数は2018年度東北電力0.528kg-CO₂/kwhを使用した。

6-1 環境経営目標の実績 ～単年実績～

当社では、環境経営目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、2020年9月から2021年8月までの実績についての評価結果を報告いたします。

表4 当該年度の環境経営目標の達成状況等

項目	単位	基準年	当該年度(2020年度)			環境目標の達成状況
		2018年度	削減(増加)率(%)	目標値	実績値	
1 二酸化炭素の総排出量	kg-CO ₂	422,101	2%	413,659	361,480	A
2 電力の二酸化炭素	kg-CO ₂	290,326	2%	284,520	225,943	A
3 ガソリン・軽油等の二酸化炭素	kg-CO ₂	38,900	2%	38,122	25,483	A
4 灯油、LPG等の二酸化炭素	kg-CO ₂	92,875	2%	91,017	110,054	C
5 一般廃棄物	kg	3,240	2%	3,175	3,390	C
6 産業廃棄物	kg	17,292	2%	16,946	15,240	A
7 資源として有価販売	kg	121,695	2%	124,129	109,839	C
8 総排水量(節水)	m ³	1,564	2%	1,533	1,106	A
9 ドラフトのROHS化	件	0	100%	0	0	A
10 グリーン購入消耗品	品種	0	100%	2	2	A
11 グリーン購入事務用品	品種	0	100%	2	2	A

※注意 購入電力の二酸化炭素排出係数は2019年度から(株)グローバルエンジニアリング0.499kg-CO₂/kwhの係数を適用しています。

評価 A 達成 100% B ほぼ達成 95%以上 C やや 達成 80%以上 是正や見直しの効果の推移
D 継続活動 70%以上 是正や見直しの検討要 E 努力を要する 50%以上 根本的見直しを必要

達成目標の原因

- ・工場のLED化による電力の削減及び、残業時間の削減に伴う夜間の電力減少によるものと考えられる。
- ・納品日を極力1日に集約し、車両の使用頻度を下げたため、ガソリン・軽油が削減できた。

未達目標の原因

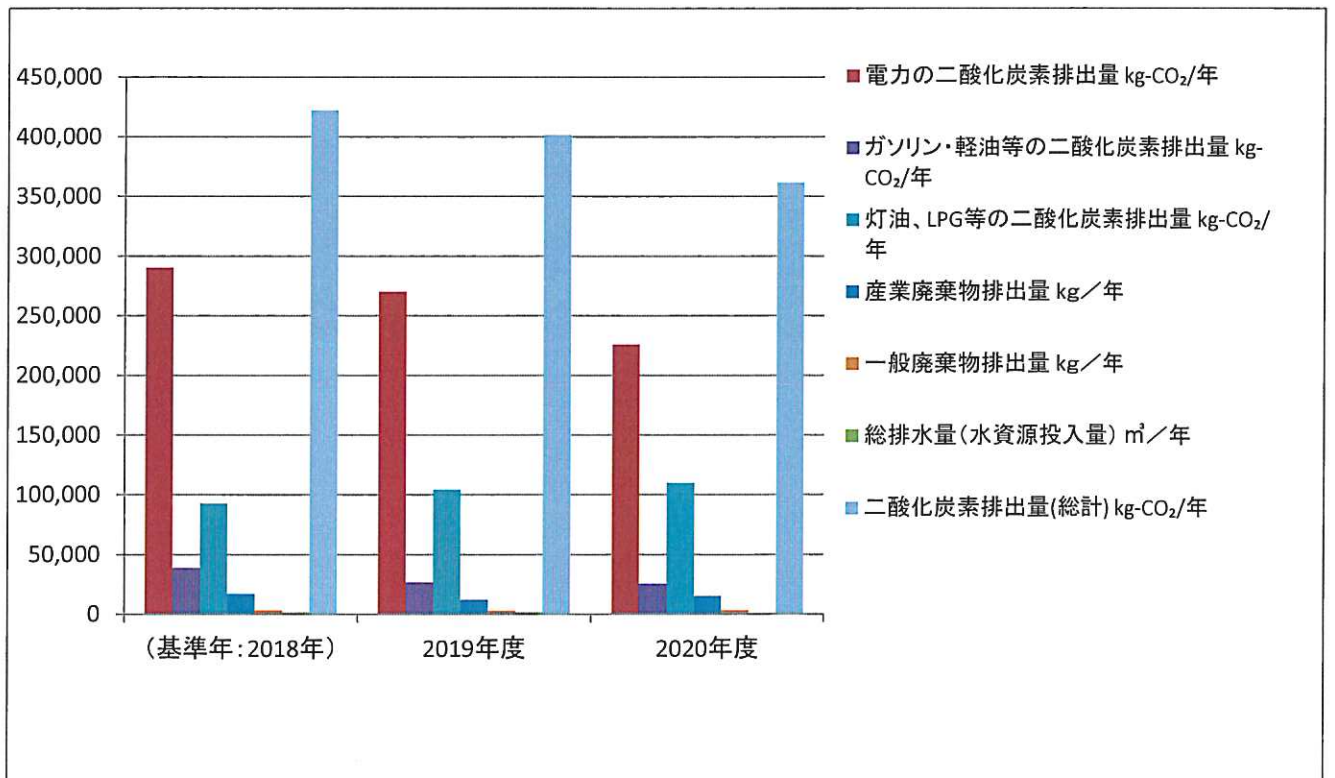
- ・厳冬により、暖房の使用量が増加した。
- ・資源としての有価販売は、スクラップの排出量自体が12%ほど減少しているため。

6-2 環境経営目標の実績 ～中期実績～

主な環境負荷の実績

表1 主な環境負荷等の実績		基準年	2019,9-2020,8	2020,9-2021,8	2021,9-2022,8
項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
電力の二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	290,326	270,230	225,943	/
ガソリン・軽油等の二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	38,900	26,935	25,483	
灯油、LPG等の二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	92,875	104,338	110,054	
産業廃棄物排出量	kg/年	17,292	12,370	15,240	
一般廃棄物排出量	kg/年	3,240	2,990	3,390	
総排水量（水資源投入量）	m ³ /年	1,564	1,711	1,106	
二酸化炭素排出量(総計)	kg-CO₂/年	422,101	401,503	361,480	

※注意 購入電力の二酸化炭素排出係数は2019年度から(株)グローバルエンジニアリング0.499kg-CO₂/kwhの係数を適用しています。



7 環境活動計画及び、取り組み結果と評価

当社では、環境方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境目標を達成するため、従業員が一丸となって 省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取り組んでおります。

取組の実施状況の評価結果は、表3のとおりです。

表3 主な環境活動計画の内容と取組結果			2020年度評価		
項目	取組内容	実施状況			
二酸化炭素排出量の抑制	照明、節電	こまめな消灯(休憩時間,まびき,不要な消灯)	まびき実施、休憩時・未使用時の消灯は定着している	○	
		生産設備休止中の電源OFF	コンプレッサーを省エネモードでの稼働を実施	○	
	冷暖房	空調設備の温度管理(冷房28℃ 暖房22℃)	エアコン等設定温度通りで定着している	○	
		暖房等の無駄運転をなくす	灯油の使用時期を限定した 工場内の隙間埋めを行い、断熱効率を上げた	○	
	車両その他	エコドライブの実施 エコドライブ10のすすめ	エコドライブの奨励とマニュアルによる啓蒙活動を行った	○	
		運送の効率化	納品日を集約し、車両の稼働日を抑えた	○	
		フォークリフトのアイドリングストップ	アイドリングストップが定着している	○	
	廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	コピー用紙の裏紙使用	裏紙使用は定着している	○
			コピー用紙のリサイクル	使用済みの物はリサイクルに回している	○
分別によるリサイクルと削減			分別しリサイクルが定着したが、一般排気物の排出量は増えているため、心がけが必要	△	
リサイクル品の見直し			リサイクル製品に切替可能な物は都度対応	○	
産業廃棄物		残材の活用	端材を使用は作業レベルで定着している	○	
		分別によるリサイクル	有価物のリサイクルは継続実施	○	
		リサイクル品の見直し	都度見直ししているが、ダンボールをリサイクルするための取り扱い方法の取り決めが必要	△	
排節水	用水・排水	節水の敢行と点検	節水は定着している 工場稼働時間外はポンプも停止し、締め忘れ等の漏水防止も実施している	○	
その他の取組		自社内の清掃活動	毎日実施している	○	
		花壇の設置や植樹(緑化運動)	時期に応じて都度実施している	○	
		エコキャップの収集運動(ポリオワクチン)	エコキャップの分別回収を実施している	○	
		地域活動への参加(市の環境活動等)	社外の清掃活動に参加 2020年度2回	○	
		化学物質の削減	理化学機器の完全粉体化完了	○	
グリーン購入		エコマーク商品の購入	エコマーク商品を選定・購入している	○	
製品・サービスに関する取組		簡易梱包の実施	納品物及び、発送物の梱包を極力簡易化している	○	

8 次年度以降の環境活動の取組内容

次年度の目標計画の主な取組内容

	活動内容	活動予定	2021年度
二酸化炭素の排出量の削減	・LED化推進	2022年5月までに実施予定	基準年比3%削減
	・フォークリフトの電動化	2022年4月に実施	
	・運送の効率化	通年	
産業廃棄物の削減	・材料端材の有効利用	通年	基準年比3%削減
	・ダンボールの取り扱い方法の 取り決め及び周知	2021年度内	
節 水	・掲示等で節水の徹底	通年	基準年比3%削減

環境目標に対して1年継続して活動していきます。

9 環境関連法規等遵守状況の確認・評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける環境基本法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題が有りませんでした。

10 代表者による全体評価と見直し等の指示の結果

見直し項目	評価	改善及び指示	対策
1. 環境経営方針	現状に合わせて変更の必要なし	継続して現方針を遂行願います。	
2. 環境経営目標及び環境経営計画	一般廃棄物の目標が未達でした。	紙による配布・保管を削減する	電子帳簿保存法が改正 紙媒体を削減し、電子媒体に保管
3. 実施体制	現状に合わせて変更の必要なし	特になし	
4. その他	なし	なし	
5. 全体評価 全社的に環境改善についての意識は向上しているが、今後は会社として、中長期的な目標設定が必要となってくるため（カーボンニュートラル・SDGs等）活動も一過性の取組ではなく継続して改善していく必要があります。2050年のカーボンニュートラルにどのように貢献していくかを考え、企業価値を高め、環境に配慮したものづくりを会社として進めていきます。			